

現代日本の青年期の男女における 善悪に関する意識構造と道徳領域判断

(3) 善悪の評価の違いについて

A Study on the Sense of Morality in Japan : Difference of judgment
in adolescent men and women (3) judgment of moral good and bad deeds

阿部 洋子

Yohko ABE

問 題

子どもたちの道徳心は、誰がどのように育成すればよいのだろうか。家庭での躾、学校での道徳の授業、地域社会での関係性のあり方などが重要であろう。しかし、現代の日本の青少年を取り巻く環境は、道徳心を育成するための場としての機能をどの程度、果たすことができているのだろうか。そしてまた、どのような機能を失ってしまったのだろうか。

Smetana 等 (1983) は、道徳・社会的慣習・個人のそれぞれの領域に属すると判断された行為を列挙し、続いてそれらの行為は、規則の有無に関わらず、即ち法律による罰則規定の有無に関わらず、「善い/悪い」と思うかの判断を求めた。その結果、19-20歳以上になれば、道徳領域に属する行為は、75-100%の範囲で、規則や期待の有無に関わらず(「規則随伴性」と称する)、「善い/悪い」と判断することができるようになる。一方、個人領域に属する行為は、88-100%の範囲で、個人の自由に任せる方がよい(「個人決定権」と称する)と判断されると報告している。ところで、道徳と類似する概念として、社会的慣習があるが、それらの行為は、道徳領域に属する行為における、規則随伴性と善悪の判断の間に見られる強い関係性は見出せなかった。つまり、Turiel (1983) は、道徳領域と社会的慣習領域は、異なる行為として認識されていると結論づけている。

これまでも予備的調査を実施(阿部:1996, 1998, 2005)し、現代の日本における道徳構造の特徴を、「悪さ」について、その程度、領域判断、社会的文脈との関係などから検討してきた。前回の報告(2009, 2010)では、青年期男女を対象とし、善悪両方の行為について調査を実施し、その報告を行った。本著では、紙数の関係で、残されていた「善悪の評価」における「程度」と「重要性」についての比較検討の結果報告を行うものである。

方 法

1. 調査対象者および調査の実施方法

調査期日：2008年10月1日～30日

調査対象者：埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）1年生に対して、留置法により実施した。授業中に記入方法についての若干の説明を行い、翌週の授業終了後に回収した。調査対象者はきわめて好意的な態度で回答に応じてくれた。回収された質問紙票のうち、記入漏れなどの欠損データのあるものを除き、251名（男子：92名、女子：159名）を分析の対象とした。更に、その後、質問紙に組み込んだ「虚偽項目（L項目）」の総得点で、高得点を示した調査対象者（上位5%）、13名は「社会的望ましさ」に強く引かれた回答をしている可能性が高く、信頼性に欠けると判断し、最終的に238名（男子：86名（平均年齢＝21.09歳（SD＝3.60））、女子152名（平均年齢＝20.21歳（SD＝1.49）））を分析の対象とした。

2. 質問紙の構成

1) 道徳性尺度（善・悪）

道徳的に「悪い」行為として選定された項目を、大学生86名に対して、「道徳的に好ましくないとと思われる行為」について、各人に10項目を挙げて貰った。その結果、得られた100以上に及ぶ行為は、20のクラスターに分類されることが分かった（阿部；1995年、未発表）。その中から、社会的文脈が変わると、道徳領域から社会的慣習、あるいは個人領域に、領域判断が変動することが確認された項目（阿部；1998）を中心に38項目が選定された。この尺度において、①「悪さ」の程度、②当為性（すべきでない）、③領域判断（道徳・社会的慣習・個人）、④「悪さ」の重要性を測定するものとした（阿部；2009）¹⁾。

次に、道徳的に「善い」行為として選定された項目は、上述の大学生86名に対して、「道徳的に好ましいと思われる行為」について、各人が10項目を挙げて貰ったもの（阿部；1995年、未発表）と、小学校・中学校の「道徳」の教科書の中から抽出されたものを、大学院生3名により、類似の表現のものをまとめた、27項目が選定された（阿部；1995年、未発表）。この尺度におい

1) 「道徳性尺度（悪さ）」についての結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要第42号（2）（2009年）』において、報告した。

て、①「善さ」の程度、②当為性(するべきだ)、③領域判断(道徳・社会的慣習・個人)、④「善さ」の重要性を測定するものとした(阿部;2010)²⁾。

本著で使用する尺度の部分についてのみ、若干の説明を加えると次のようになる。

- ①「悪さ」の程度： 選定された38項目について、どの程度悪いと感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で、1点刻みの評定を求めた(非常に悪い：10点～全く悪くない：0点)。
- ②行為の重要性： 選定された38項目について、それらの行為の重要性について、どのように感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で1点刻みの評定を求めた(非常に重要だ：10点～全く重要ではない：0点)。
- ③「悪さ」の領域判断： 選定された38項目について、その行為を「しない方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれか1つを選択するよう求めた。
- ④「善さ」の程度： 選定された27項目について、どの程度善いと感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で、1点刻みの評定を求めた(非常によい：10点～良いことなどは、全く考えられない。なぜ、良いことなのか、理由が全く分からない：0点)。
- ⑤行為の重要性： 選定された27項目について、それらの行為の重要性について、どのように感じるかを、マグニチュード推定法を用い、0～10点の範囲で1点刻みの評定を求めた(非常に重要だ：10点～全く重要ではない：0点)。
- ⑥「善さ」の領域判断： 選定された27項目について、その行為を「した方がよい」と考える“暗黙のルール”は、「道徳」、「社会的慣習」、「個人」のどの領域に属すると考えるかについて、いずれか1つを選択するよう求めた。

さて、この質問紙調査において、同一質問項目に、あえて「程度」と「重要性」を設問したが、その意味について説明したい。本調査のような「道徳」に関する質問に対しては、社会的に望ましい回答をする可能性が高いことを予想される。それを回避するための1つの方法として、虚偽項目(L項目)を挿入し、それらの得点が高い調査対象者のデータを、分析対象からはずすことにした。更に、善悪に対する一般論的な評定、建前としての評定を求める質問として「程度(10～0点)」を、自分自身にとってはどうであるか、本音としての評定を求める質問として「重要性(10～0点)」を設けることによって、できるだけ個人の生の回答を得たいと考えた。

2) 「道徳性尺度(善さ)」についての結果は、『跡見学園女子大学文学部紀要第44号(2010年)』において、報告した。

結 果

1. 「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値にみられる男女差

(男子：Table 1、女子：Table 2)

1) 「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値による検討：全体傾向

①男子では、「悪さの程度」38項目全体の平均評定値は、6.69点 (SD = 1.48)、因子別平均評定値は、第1因子 (狡猾さ、卑劣さ、交通法規違反、喫煙・飲酒) が、6.65点 (SD = 1.26)、第2因子 (電車など公共の場でのルール無視、お年寄り、他者、物との関係性の軽視) が、6.60点 (SD = 0.68)、第3因子 (親子、物との関係性の軽視、暴力) が、7.51点 (SD = 1.33)、第4因子 (生命軽視) が、5.14点 (SD = 1.25) であった。

次に、「悪さの重要性」38項目全体の平均評定値は、6.62点 (SD = 1.58)、因子別平均評定値は、第1因子 (狡猾さ、卑劣さ、交通法規違反、喫煙・飲酒) が、6.46点 (SD = 1.31)、第2因子 (電車など公共の場でのルール無視、お年寄り、他者、物との関係性の軽視) が、6.54点 (SD = 0.76)、第3因子 (親子、物との関係性の軽視、暴力) が、7.46点 (SD = 1.38)、第4因子 (生命軽視) が、5.64点 (SD = 1.30) であった。

以上のように、男子では「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値を比較すると、全体および第1～3因子では、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の方が高得点を示し、第4因子では、「悪さの程度」より「悪さの重要性」の方が高得点を示す傾向が見られた。

②女子では、「悪さの程度」38項目全体の平均評定値は、6.85点 (SD = 1.40)、因子別平均評定値は、第1因子 (狡猾さ、卑劣さ、交通法規違反、精神的・肉体的な暴力) が、7.58点 (SD = 0.92)、第2因子 (電車など公共の場でのルール無視) が、7.08点 (SD = 0.99)、第3因子 (親、お年寄り、他者、物との関係性の軽視) が、6.58点 (SD = 1.07)、第4因子 (男女の問題、喫煙、飲酒) が、4.44点 (SD = 1.08) であった。

次に「悪さの重要性」38項目全体の平均評定値は、6.99点 (SD = 1.39)、因子別平均評定値は、第1因子 (狡猾さ、卑劣さ、交通法規違反、精神的・肉体的な暴力) が、7.61点 (SD = 0.92)、第2因子 (電車など公共の場でのルール無視) が、7.14点 (SD = 1.06)、第3因子 (親、お年寄り、他者、物との関係性の軽視) が、6.86点 (SD = 1.16)、第4因子 (男女の問題、喫煙、飲酒) が、4.83点 (SD = 1.26) であった。

以上のように、女子では「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値を比較すると、全体、因子別のすべてにおいて「悪さの程度」より「悪さの重要性」の方が高得点を示す傾向が見られた。

2) 「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値の差による検討：t検定による分析

「悪さ」の道徳性尺度 38 項目について、「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値について、t 検定による差の検定を実施した。

①男子では、第 1 因子の「No.37 仕事をさぼる」($t(85) = 2.07, p < 0.05$)、「No.34 カンニングする」($t(85) = 2.69, p < 0.01$)、「No.26 違法駐車」($t(85) = 2.04, p < 0.05$)、「No.17 不倫・浮気」($t(85) = 2.53, p < 0.05$)、「No.12 列への割り込み」($t(85) = 4.19, p < 0.001$)、「No.32 授業中のおしゃべり」($t(85) = 3.01, p < 0.01$)、「No.27 信号無視」($t(85) = 2.67, p < 0.01$)、第 2 因子の「No.35 お年寄りに冷たくする」($t(85) = 3.39, p < 0.01$)、第 3 因子の「No.4 動物虐待」($t(85) = 3.17, p < 0.01$)、「No.28 キセル」($t(85) = 2.99, p < 0.01$)、「No.29 売春。援助交際」($t(85) = 2.05, p < 0.05$)、以上 11 項目において、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の平均評定値が有意に高得点を示した。

また、第 2 因子の「No.18 困っている人を助けない」($t(85) = 2.69, p < 0.01$)、第 3 因子の「No.8 親不孝」($t(85) = 2.79, p < 0.01$)、第 4 因子の「No.7 離婚」($t(85) = 4.53, p < 0.001$)、「No.31 自殺」($t(85) = 2.51, p < 0.05$)、以上 4 項目において、「悪さの程度」より「悪さの重要性」の平均値が有意に高得点を示した。

②女子では、第 1 因子の「No.28 キセル」($t(151) = 2.75, p < 0.01$)、第 2 因子の「No.12 列への割り込み」($t(151) = 2.25, p < 0.05$)、以上 2 項目において、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の平均評定値が有意に高得点を示した。

また、第 1 因子の「No.3 人をバカにする」($t(151) = 3.11, p < 0.01$)、「No.37 仕事をさぼる」($t(151) = 1.98, p < 0.05$)、第 2 因子の「No.2 ゴミのポイ捨て」($t(151) = 2.11, p < 0.05$)、「No.30 公共の場で騒いでいる自分の子どもを注意しない」($t(151) = 2.30, p < 0.05$)、第 3 因子の「No.8 親不孝」($t(151) = 2.56, p < 0.05$)、「No.21 物と大事にしない」($t(151) = 2.32, p < 0.05$)、「No.31 自殺」($t(151) = 4.06, p < 0.001$)、「No.20 親の言いつけに従わない」($t(151) = 2.65, p < 0.01$)、「No.5 ありがとう、ごめんなさいを言わない」($t(151) = 4.74, p < 0.001$)、第 4 因子の「No.7 離婚」($t(151) = 4.13, p < 0.001$)、「No.6 人工中絶」($t(151) = 4.61, p < 0.001$)、「No.25 タバコを吸う」($t(151) = 3.58, p < 0.001$)、以上 12 項目において、「悪さの程度」より「悪さの重要性」の平均評定値が有意に高得点を示した。

2. 「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値にみられる男女差 (男子：Table 3、女子：Table 4)

1) 「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値による検討：全体傾向

①男子では、「善さの程度」27項目全体の平均評定値は、7.32点 (SD = 1.37)、因子別平均評定値は、第1因子(家族、先祖、自然との関係性の尊重)が、7.82点 (SD = 0.93)、第2因子(日本人、日本、故郷の尊重。神仏、太陽の礼拝の実行)が、6.20点 (SD = 1.52)、第3因子(挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重。公衆道徳の尊重)が、7.55点 (SD = 1.05)、第4因子(ルールの遵守)が、7.74点 (SD = 0.82)であった。

次に、「善さの重要性」27項目全体の平均評定値は、7.08点 (SD = 1.40)、因子別平均評定値は、第1因子(家族、先祖、自然との関係性の尊重)が、7.47点 (SD = 0.90)、第2因子(日本人、日本、故郷の尊重。神仏、太陽の礼拝の実行)が、5.72点 (SD = 1.48)、第3因子(挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重。公衆道徳の尊重)が、7.45点 (SD = 1.00)、第4因子(ルールの遵守)が、8.12点 (SD = 0.93)であった。

以上のように、男子では「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値を比較すると、全体および第1～3因子では、「善さの重要性」より「善さの程度」の方が高得点を示し、第4因子では「善さの程度」より「善さの重要性」の方が高得点を示す傾向が見られた。

②女子では、「善さの程度」27項目全体の平均評定値は、7.24点 (SD = 1.18)、因子別平均値は、第1因子(ルールの遵守。挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重。公衆道徳の尊重)が、8.07点 (SD = 0.55)、第2因子(神仏、太陽の礼拝の実行。先祖、行事の尊重)が、5.81点 (SD = 1.38)、第3因子(夢、自然の尊重)が、7.83点 (SD = 0.54)、第4因子(日本人、日本、故郷の尊重)が、6.16点 (SD = 0.55)であった。

次に「善さの重要性」27項目全体の平均値は、7.01点 (SD = 1.27)、因子別平均値は、第1因子(ルールの遵守。挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重。公衆道徳の尊重)が、7.79点 (SD = 0.56)、第2因子(神仏、太陽の礼拝の実行。先祖、行事の尊重)が、5.60点 (SD = 1.35)、第3因子(夢、自然の尊重)が、7.66点 (SD = 0.54)、第4因子(日本人、日本、故郷の尊重)が、5.97点 (SD = 0.57)であった。

以上のように、女子では「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値を比較すると、全体、因子別のすべてにおいて「善さの重要性」より「善さの程度」の方が高得点を示す傾向が見られた。

2) 「程度」と「重要性」の平均評定値の差による検討：t検定による分析

「善さ」の道徳性尺度 27 項目について、「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値について、t 検定による差の検定を実施した。

①男子では、第 1 因子の「No.17 自分の先祖を大切に思う」($t(85) = 3.87, p < 0.001$)、「No.16 先祖のお墓参りに行く」($t(85) = 2.92, p < 0.01$)、「No.24 夢や目標の実現のために努力する」($t(85) = 2.64, p < 0.01$)、「No.27 自然と調和した生き方をする」($t(85) = 3.76, p < 0.001$)、「No.6 お年寄りに席を譲る」($t(85) = 3.34, p < 0.01$)、「No.1 他人に対して感謝のことばをいう」($t(85) = 3.97, p < 0.001$)、第 2 因子の「No.21 故郷を大切に思う」($t(85) = 3.24, p < 0.01$)、「No.18 神仏に手を合わせる」($t(85) = 3.78, p < 0.001$)、「No.5 年上の人に敬語を使う」($t(85) = 4.08, p < 0.001$)、第 3 因子の「No.3 近所の人に挨拶する」($t(85) = 4.92, p < 0.001$)、以上 10 項目において、「善さの重要性」より「善さの程度」の平均評定値が有意に高得点を示した。

また、第 4 因子の「No.12 法律を守る」($t(85) = 2.26, p < 0.05$)、「No.11 社会のルールを守る」($t(85) = 2.12, p < 0.05$)、以上 2 項目において、「善さの程度」より「善さの重要性」の平均評定値が有意に高得点を示した。

②女子では、第 1 因子の「No.5 年上の人に敬語を使う」($t(151) = 2.90, p < 0.01$)、「No.2 家族の人に対して感謝のことばをいう」($t(151) = 3.90, p < 0.001$)、「No.1 他人に対して感謝のことばをいう」($t(151) = 5.07, p < 0.001$)、「No.7 怪我をしている人に席を譲る」($t(151) = 4.67, p < 0.001$)、「No.4 学校の先生に挨拶する」($t(151) = 5.11, p < 0.001$)、「No.15 親孝行する」($t(151) = 2.53, p < 0.05$)、第 2 因子の「No.18 神仏に手を合わせる」($t(151) = 2.92, p < 0.01$)、「No.17 先祖を大切に思う」($t(151) = 3.34, p < 0.01$)、「No.16 先祖のお墓参りに行く」($t(151) = 2.59, p < 0.05$)、「No.19 太陽に手を合わせる」($t(151) = 2.58, p < 0.05$)、「No.13 年中行事を大切ににする」($t(151) = 2.53, p < 0.05$)、第 3 因子の「No.26 自然を大切ににする」($t(151) = 2.40, p < 0.05$)、「No.24 夢や目標の実現のために努力する」($t(151) = 2.11, p < 0.05$)、第 4 因子の「No.21 故郷を大切に思う」($t(151) = 2.85, p < 0.01$)、以上 12 項目において、「善さの重要性」より「善さの程度」の平均評定値が有意に高得点を示した。

また、第 1 因子の「No.12 法律を守る」($t(151) = 2.13, p < 0.05$) の 1 項目においてのみ、「善さの程度」より「善さの重要性」の平均評定値が有意に高得点を示した。

3. 悪さの「程度と重要性」の平均評定値と領域判断との関係についての検討

(男子：Table 1、女子：Table 2)

①男子では、「重要性」より「程度」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについて検討した。

その結果、有意差が見られた11項目中、判断が「道徳」領域に偏って選択された項目は「No. 35 お年寄りに冷たくする」「No. 4 動物虐待」の2項目、「社会的慣習」領域に偏って選択された項目は「No. 37 仕事をさぼる」「No. 26 違法駐車」「No. 27 信号無視」の3項目、「個人」領域に偏って選択された項目は「No. 17 不倫・浮気」「No. 32 授業中のおしゃべり」の2項目、「道徳と社会的慣習」の2つの領域に分散した項目は「No. 12 列への割り込み」「No. 28 キセル」の2項目、「道徳と個人」の2つの領域に分散した項目は「No. 29 売春・援助交際」の1項目、「道徳と社会的慣習と個人」の3つの領域に分散した項目は「No. 34 カンニング」の1項目であった。

また、「程度」より「重要性」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについての検討を実施した。

その結果、有意差が見られた4項目中、判断が「道徳」領域に偏って選択された項目は「No. 8 親不孝」の1項目、「個人」領域に偏って選択された項目は「No. 7 離婚」の1項目、「道徳と個人」領域の2つの領域に分散した項目は「No. 18 困っている人を助けない」「No. 31 自殺」の2項目であった。

②女子では、「重要性」より「程度」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについて検討した。

その結果、有意差が見られたのは「No. 28 キセル」1項目のみであった。この項目の領域判断は、「道徳と社会的慣習」の2つの領域に分散したものであった。

また、「程度」より「重要性」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについて検討した。

その結果、有意差が見られた13項目中、判断が「道徳」領域に偏って選択された項目は「No. 12 列への割り込み」「No. 2 ゴミのポイ捨て」の2項目、「社会的慣習」領域に偏って選択された項目は「No. 37 仕事をさぼる」の1項目、「個人」領域に偏って選択された項目は「No. 21 物を大事にしない」「No. 20 親の言いつけに従わない」「No. 7 離婚」「No. 6 人工中絶」「No. 25 喫煙」の5項目、「道徳と個人」領域の2つの領域に分散した項目は「No. 3 人をバカにする」「No. 8 親不孝」「No. 31 自殺」「No. 5 ありがとうを言わない」の4項目、「道徳と社会的慣習と個人」の3つの領域に分散した項目は「No. 30 公共の場で騒いでいる自分の子どもを注意しない親」の1項目であった。

4. 善さの「程度と重要性」の平均評定値と領域判断との関係についての検討

(男子：Table 3、女子：Table 4)

①男子では、「重要性」より「程度」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについて検討した。

その結果、有意差が見られた10項目中、判断が「道徳」領域に偏って選択された項目は「No.1 他人に対して感謝のことばをいう」の1項目、「社会的慣習」領域に偏って選択された項目は「No.5 年上の人に対して敬語を使う」「No.3 近所の人に挨拶する」の2項目、「個人」領域に偏って選択された項目は「No.24 目標の実現のために努力する」「No.21 故郷を大切にする」「No.18 神仏に手を合わせる」の3項目、「道徳と社会的慣習」の2つの領域に分散した項目は「No.6 お年寄りに席を譲る」の1項目、「道徳と個人」の2つの領域に分散した項目は「No.17 先祖を大切に思う」の1項目、「道徳と社会的慣習と個人」の3つの領域に分散した項目は「No.16 先祖のお墓参りに行く」「No.27 自然と調和した生き方をする」の2項目であった。

また、「程度」より「重要性」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについて検討した。

その結果、有意差が見られた2項目は、いずれも「社会的慣習」領域に偏って選択された項目はであった（「No.12 法律を守る」「No.11 社会のルールを守る」）。

②女子では、「重要性」より「程度」における平均評定値が有意に高い項目で、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについての検討を実施した。

その結果、有意差が見られたのは「No.12 法律を守る」1項目のみであり、それは「道徳と社会的慣習」の2つの領域に分散したものであった。

また、「程度」より「重要性」における平均評定値が有意に高い項目が、道徳・社会的慣習・個人のどの領域として判断されているかについての検討を実施した。

その結果、有意差が見られた16項目中、判断が「道徳」領域に偏って選択された項目は「No.2 家族の人に対して感謝のことばをいう」「No.1 他人に対して感謝のことばをいう」「No.7 怪我をした人に席を譲る」「No.26 自然を大切にする」の4項目、「社会的慣習」領域に偏って選択された項目は「No.4 学校の先生に挨拶する」「No.3 近所の人に挨拶する」の2項目、「個人」領域に偏って選択された項目は「No.18 神仏に手を合わせる」「No.17 先祖を大切に思う」「No.19 太陽に手を合わせる」「No.24 目標の実現のために努力する」「No.21 故郷を大切に思う」の5項目、「道徳と社会的慣習」の2つの領域に分散した項目は「No.5 年上の人に対して敬語を使う」「No.6 お年寄りに席を譲る」2項目、「道徳と個人」領域の2つの領域に分散した項目は「No.15 親孝行する」の1項目、「道徳と社会的慣習と個人」の3つの領域に分散した項目は「No.16

先祖のお墓参りに行く」の1項目、「社会的慣習と個人」領域の2つの領域に分散した項目は「No. 13 年中行事を大切にする」の1項目であった。

考 察

1. 「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値にみられる男女差

仮説に基づけば、「程度」は一般論、建前としての得点が示され、「重要性」は自分自身にとって、その行為をどれほど大切だと考えているか、本音としての得点が示されるのではないかとされる。

そこで先ず「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値の全体傾向を検討したところ、「悪さの程度」の全体平均評定値、「悪さの重要性」の全体平均評定値の、いずれも男子に比べ、女子の方が高得点であった。それらのことから、建前としての評定も、本音としての評定も、女子の方が、より悪いことだと評定する傾向があることが示唆された。

更に、男子では、第4因子（生命軽視）を除き、「程度」の方が高得点を示し、建前としての「悪さ」の評定が高い傾向が見られた。一方、女子は、すべての因子において、「重要性」の方が高得点を示し、本音としての「悪さ」の評定が高い傾向が見られた。

次に、「悪さの程度」と「悪さの重要性」の平均評定値の差について、t検定を実施したところ、男子では、38項目中11項目において、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の平均評定値が有意に高いという結果が得られた。つまり、建前としての評定値の方が、本音としての評定値より高く回答される傾向が見られた。

一方、女子では、「悪さ」の「程度」と「重要性」の平均評定値について、t検定を実施したところ、38項目中2項目において、悪さの「重要性」より「程度」における平均評定値が有意に高いという結果が得られた。また、38項目中12項目において、悪さの「程度」より「重要性」における平均評定値が有意に高いという結果が得られた。つまり、本音としての評定値の方が、建前としての評定値より高く回答される傾向が見られた。

以上のことから、「悪さ」について漠然と評定を求めたとき、男子と女子では、前述した全体傾向だけでなく、t検定による分析の結果でも、女子の方がより悪いことだと評定する傾向がみられる。即ち、本音と建前というレベルを考えると、男子は、建前レベルで悪いと評定するより、本音レベルではそれほど悪いとは評定していないという傾向がある。逆に、女子は、建前レベルで悪いと評定する以上に、本音レベルでは悪いと評定している傾向があり、男子との評定値の開きはより大きなものになる傾向がみられた。したがって、男子から見ると女子は、本音のレベルで悪さを評定しており、女子から見ると男子は、建前で悪さを評定しているということになる。

これが、男女間で、「悪さ」についての評価に、何らかの違和感を生じさせているのかもしれない。また、「悪さ」に関する行為の抑止力は、男子においては、知識の注入が重要であり、女子においては、情緒に訴えることであることが示唆されたといえよう。

更に、男女共に、悪さの「重要性」の平均評定値が有意に高かった項目に注目すると、それは、「親不孝をすること」「自殺すること」「離婚すること」の3項目であった。これらは、調査対象者が大学生で、子どもの立場にあること、青年期にあることが関係しているのかもしれない。つまり、現状がどうであれ、本音のレベルでは「親不孝」をしてはいけない、「自殺」をしてはいけない、「離婚」することはよくないと思っているということであろう。

2. 「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値にみられる男女差

先ず、「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値の全体傾向を男女間で検討したところ、「善さの程度」の全体平均値、「善さの重要性」の全体平均値の、いずれも女子に比べ、男子の方が高得点であった。それらのことから、建前としての評定も、本音としての評定も、男子の方が、より善いことだと評定する傾向がみられた。

更に、男子では、すべての因子において、「善さの重要性」より「善さの程度」の方が高得点を示し、「悪さ」についての評定と同様に、建前としての「善さ」の評定が高い傾向が見られた。一方、女子でも、すべての因子において、「善さの重要性」より「善さの程度」の方が高得点を示したが、これは「悪さ」についての評定とは逆に、建前としての「善さ」の評定が高い傾向が見られた。

したがって、「善さ」について漠然と評定を求めたときは、「悪さ」とは異なり、男子の方が、より善いことだと評定する傾向がみられた。更に、本音と建前というレベルを考えると、男女共に、本音より建前レベルでより善いことだと評定していることが分かった。つまり、道徳に関する行為についての評定態度は、善悪では異なっており、「善さ」についての評定は、男女共に、建前レベルが高いということになり、知識としては「善い」行為であることは知っているが、実行するとすると、本音レベルの「やりたくない」ということが表面化し、それが行動となって表れ、その結果、実行しないということになるのかもしれない。

次に「善さの程度」と「善さの重要性」の平均評定値の差について、t検定を実施したところ、男子では、27項目中10項目において、「善さの重要性」より「善さの程度」における平均評定値が有意に高いという結果が得られた。つまり、建前としての評定値の方が、本音としての評定値より高く回答される傾向が見られた。

また、「法律を守る」と「社会のルールを守る」という2項目が、「善さの重要性」の平均値が

有意に高く、建前レベルではなく、本音レベルで、「法律」「ルール」の遵守に対して高く評価していることが分かった。

一方、女子では、27項目中12項目において、「善さの重要性」より「善さの程度」における平均評定値が有意に高いという結果が得られた。「善さの程度」より「善さの重要性」における平均評定値が有意に高い項目は、「法律を守る」の1項目のみであった。つまり、女子では、「善い」行為は、建前レベルで高く評定される傾向があり、「悪い」行為は、本音レベルで高く評定される傾向がみられた。

さて、「法律を守る」ことは、男女共に、本音レベルで高く評価されているが、その他の「善い」行為については、学校教育などで教えられているので、建前としては善いことだとは分かっているけれども、それは「やらされていた」に過ぎない行為であり、本音レベルでは、「やりたくない」「やる必要はない」行為として評価されていることが推測される。例えば、小学校で実施している、朝の挨拶運動というものが、将来、大切なものとして身に付くのか、実行されるのかを考えてみよう。例えば、「No.1 他人に対して感謝のことばをいう」「No.2 家族の人に対して感謝のことばをいう」「No.3 近所の人に挨拶する」「No.4 学校の先生に挨拶する」の4項目を取り出してみると、男子では「No.1」と「No.3」の2項目、女子では4項目すべてが、「程度」の評価が高く、建前レベルで考えられていることが推測される。つまり、知識としては注入されているが、情緒面で受け入れられていないため、実行する段になると、「やりたい時にやる」「やりたい人に対してだけはやる」という本音レベルの判断が優先されてしまうということを予想させる結果だと考えられる。

3. 悪さの「程度と重要性」と領域判断との関係についての検討

男子では、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の平均評定値が有意に高い項目が11項目であった。これらの項目は、「道徳」および「社会的慣習」の領域だと判断された項目が7項目、判断に「個人」の領域が含まれた項目が4項目であった。つまり、「悪さの程度」の評定が高いことは、その行為が「道徳」ないし「社会的慣習」領域と判断されていることが関係しているということであった。したがって、男子では、「悪さ」に関する行為の抑止力として、それらの行為が「道徳」や「社会的慣習」に属する行為だと判断されることが重要であることが示唆された。

女子では、「悪さの重要性」より「悪さの程度」の平均評定値が有意に高い項目が1項目しかないため、一般化を検討することは困難である。一方、「悪さの程度」より「悪さの重要性」の平均評定値が有意に高い項目13項目では、領域判断とどのような関係が見られるだろうか。ここでは、「個人」領域だと判断された項目が5項目、「道徳と個人」の2つの領域に判断が分散した項目が4項目、「道徳と社会的慣習と個人」の3つの領域に判断が分散した項目が1項目であり、判

断に「個人」の領域を含む項目が10項目あった。つまり、「悪さの重要性」の評定が高いことは、その行為が「個人」領域と判断されていることが関係していると考えられる。即ち、建前レベルより、本音レベルの評定値が高いということは、その行為が個人としてどれだけ大切か、重要かということと関係していることが分かる。しかし、ある行為が「個人」領域の問題と判断されることは、「道徳」の問題が、「私主義」へと繋がる可能性がある。また、個人の判断が評価基準となれば、こうした行為は悪いことだと、いくら知識が注入されても、それは抑止力として働かないことが予想される。

4. 善さの「程度と重要性」と領域判断との関係についての検討

男子では、「善さの重要性」より「善さの程度」の平均評定値が有意に高い項目が10項目であった。ここでは、「道徳」ないし「社会的慣習」の領域だと判断された項目が4項目、判断に「個人」の領域が含まれた項目は7項目であった。つまり、「程度」の評定が高いことは、その行為が「個人」ないし「個人」の領域を含むと判断されていることが関係していると考えられる。次に「程度」より「重要性」の平均値が有意に高い2項目は、いずれも「社会的慣習」領域として判断されている。ここでは、建前レベルの評定値が高く、本音レベルの評定値が低いことが、「個人」の領域だと判断される傾向があることが分かる。即ち、「善さ」を評価する際に、「個人」領域に属する行為だと判断していることによって、知識として「善い」行為だと分かっているにもかかわらず、個人の自由になされるべきものだと判断することで、実行することが抑制されてしまうのではないかと予想される。

女子では、「善さの程度」より「善さの重要性」の平均評定値が有意に高い項目が1項目しかないため、一般化を検討することは困難である。一方、「善さの重要性」より「善さの程度」の平均評定値が有意に高い項目16項目では、領域判断とどのような関係が見られるだろうか。ここでは、「道徳」および「社会的慣習」の領域だと判断された項目が8項目であった。次に判断に「個人」の領域が含まれた項目は8項目である。そのため、このことだけで、建前レベルとしての「善さ」を高く評定することと、ある行為を「個人」領域として判断することとが、どのような関係にあるかを一般化することは困難である。

しかし、因子別に検討すると、第1因子（ルール遵守、挨拶、感謝などの言葉掛けの尊重、公衆道徳の尊重）は、「道徳」および「社会的慣習」の領域に属すると判断されており、第2因子（神仏、太陽の礼拝の実行、先祖、行事の尊重）、第3因子（夢、自然の尊重）、第4因子（日本人、日本、故郷の尊重）は、「個人」および判断に「個人」の領域が分散する傾向が見られた。即ち、女子においては、ルール、公衆道徳に関する行為は、道徳や社会的慣習に属する行為と判断することで、建前レベルの評定値が高くなっていることが分かる。そして、その他の行為、例え

ば「先祖尊重や日本人尊重」や「自然や神仏への畏敬の念」などに関する行為については、個人領域に属する行為と判断することで、建前レベルの評定値が高くなり、本音レベルでは、高評価を下さないという傾向があり、知識としては分かっているが、個人の自由に任されていると判断することで、実行することが抑制されているのではないかと考えられる。したがって、挨拶行動や席を譲るなどといった「博愛的行動」については、「道徳」や「社会的慣習」の領域に属すると判断されると共に、建前レベルの得点が高くなっていることで、実行可能性が高くなっているのではないかと考えられる。

要 約

埼玉県および神奈川県にある私立大学（通学制）の1年生、238名（男子：86名、女子：152名）に対して、道徳に関する様々な善悪に関する行為について、「程度」「重要性」「領域判断」「当為性」について、質問紙を用いて、留置法で調査を実施した。その中から、本著では、善悪それぞれの「程度」と「重要性」の評定値との関係、およびその評定値と領域判断との関係について検討した結果、いくつかの点で、男女差が認められることと、善悪では、実行に伴う判断の基準、抑止力となるものが異なるなどの結果が見出された。

先ず、同一項目について、あえて「程度」と「重要性」を設問した理由は、「程度」においては「建前レベル」の回答を、「重要性」においては「本音レベル」の回答を得ることができると考えたからである。この仮説に基づき、善悪それぞれの行為について「程度」と「重要性」の平均評定値について検討した。その結果、「悪さ」については、男子では「重要性」より「程度」の平均評定値が高く、女子では「程度」より「重要性」の平均評定値が高いという結果が得られた。即ち、同じ行為について、その「悪さ」を問うと、男子では建前レベルで回答した場合より、本音レベルではそれほど悪くないと評定している。一方、女子では建前レベルで回答した場合より、本音レベルではそれ以上悪いと評定する傾向があることが分かった。これらのことから、「悪さ」の抑止力として、男子においては知識の注入がより効果的であり、女子においては情緒に訴えかけることがより効果的であることが示唆された。

また「善さ」を問うと、男子では「悪さ」と同様に、「重要性」より「程度」の平均評定値が高いが、女子では「悪さ」とは異なり、「重要性」より「程度」の平均評定値が高くなった。即ち、男女共に、建前レベルで回答した場合より、本音レベルではそれほど善いとは思っていないと評定している。これらのことから、男女共に、その行為が「善い」ことだと知識として知っているが、「善さ」の実行は抑制される傾向にあることが分かった。

更に、善悪それぞれの行為の「程度」と「重要性」の平均評定値と領域判断との関係を検討した。その結果、「悪さ」の場合は、判断が「個人」領域に偏っている行為で、「重要性」の評定値

の高さが関係している行為、即ち、知識として「悪い」ことだと注入されているが、個人の自由に任される行為だと判断されている行為が男子では3項目、女子では10項目であった。ここでも女子においては、知識より、情緒に訴えることが効果的であることが示唆された。

また、「善さ」の場合は、判断が「個人」領域に偏っている行為で、「程度」の評定値の高さが関係している行為、即ち、知識としては「善い」ことだと注入されているが、個人の自由に任されている行為だと判断されることによって、実行が抑制されることが予想される行為が男子では7項目、女子では8項目あった。即ち、「善い」行為を実行させるためには、男女共、情緒面だけでなく、知識に訴えていく必要があることが示唆された。

参考文献

- 阿部洋子 1996 道徳性尺度作成の試み——予備的研究—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第6号
- 阿部洋子 1998 道徳性尺度作成の試み——予備的研究(3)—— 日本女子大学紀要 人間社会学部 第8号
- 阿部洋子 2005 現代日本人における「道徳性」に関する意識構造の心理学的解明の試論——「道徳性尺度」作成のための予備的調査(2)—— 跡見学園女子大学文学部紀要 第38号
- 阿部洋子 2007 現代日本人の青年期女子における善悪に関する意識構造と道徳領域判断 跡見学園女子大学文学部紀要 第40号
- 阿部洋子 2009 現代日本の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(1)「悪さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第42号(2)
- 阿部洋子 2010 現代日本の青年期の男女における善悪に関する意識構造と道徳領域判断(2)「善さ」について 跡見学園女子大学文学部紀要 第44号
- 文部省 1988 小学校指導書 道徳編
- 文部省 1988 中学校指導書 道徳編
- Smetana, J. G., Bridgeman, D. L. & Turiel, E. 1983 Differential of domains and prosocial behavior. In D. L. Bridgeman (Ed.), *The nature of prosocial development; Interdisciplinary theories and strategies.* (pp. 163-183) New York; Academic Press.
- Turiel, E. 1978 The development of concepts of social structure: Social convention In Glick, J. & Clark-Stewart, K. A. (Eds.), *The Development of social understanding.* (25-107). New York; Gardner Press.
- Turiel, E. 1983 *The development of social knowledge: Morality and convention: Cambridge.* England: Cambridge.

Table1 悪さの程度と重要性の平均評定値の差 (男子) : 因子別表示

| 因子 | 項目 No | 行為 | 程度 | | 程度と重要性の平均値の大小 | 重要性 | | t値 | *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001 | 領域判断: 道徳 (人) | 領域判断: 社会的慣習 (人) | 領域判断: 個人 (人) | |
|------|--------------|--|------|------|---------------|------|------|------|---|--------------|-----------------|--------------|--|
| | | | 平均値 | SD | | 平均値 | SD | | | | | | |
| 第1因子 | 25 | タバコを吸う。 | 5.05 | 3.46 | > | 4.91 | 3.71 | 0.55 | | 6 | 20 | 60 | |
| | 37 | 仕事をさぼる。無断で休む。 | 7.49 | 2.41 | > | 7.00 | 2.89 | 2.07 | * | 20 | 42 | 24 | |
| | 24 | 酔っぱらう。 | 3.02 | 2.50 | > | 2.88 | 2.59 | 0.73 | | 8 | 6 | 70 | |
| | 34 | 試験のときなどに、カンニングする。 | 7.51 | 2.40 | > | 6.93 | 2.44 | 2.69 | ** | 26 | 26 | 34 | |
| | 19 | うそのうわさを流す。 | 6.44 | 2.62 | > | 6.33 | 2.70 | 0.70 | | 40 | 12 | 34 | |
| | 2 | ゴミ、タバコ、空き缶などのポイ捨てをする。 | 7.88 | 2.13 | < | 8.19 | 2.29 | 1.84 | | 50 | 22 | 14 | |
| | 22 | 約束を守らない。約束を破る。秘密を守らない。 | 7.47 | 2.32 | < | 7.67 | 2.58 | 1.21 | | 44 | 10 | 32 | |
| | 33 | 人にうそをつく。 | 6.05 | 2.29 | > | 5.95 | 2.71 | 0.52 | | 50 | 6 | 30 | |
| | 38 | 小学生・中学生の茶髪。 | 4.63 | 3.07 | > | 4.40 | 3.26 | 1.56 | | 4 | 32 | 50 | |
| | 30 | 電車の中や、公共の場で、自分の子どもが騒いでも注意しない[その子どもの親の態度]。 | 7.81 | 2.13 | < | 7.84 | 2.24 | 0.23 | | 38 | 34 | 14 | |
| | 26 | 違法駐車。 | 6.07 | 2.52 | > | 5.79 | 2.66 | 2.04 | * | 16 | 48 | 22 | |
| | 3 | 人をバカにする。見下す。 | 6.93 | 2.17 | > | 6.54 | 2.97 | 1.68 | | 46 | 8 | 32 | |
| | 14 | 人を精神的に傷つける。 | 7.77 | 1.93 | > | 7.72 | 2.24 | 0.30 | | 60 | 4 | 22 | |
| | 17 | 不倫・浮気。 | 7.07 | 2.50 | > | 6.49 | 3.02 | 2.53 | * | 20 | 14 | 52 | |
| | 12 | 列への割り込み。順番を守らない。 | 6.91 | 2.55 | > | 6.47 | 2.74 | 4.19 | *** | 34 | 38 | 14 | |
| | 9 | 他の人を、いじめる。 | 7.65 | 2.10 | < | 7.84 | 2.39 | 1.24 | | 46 | 14 | 26 | |
| | 36 | 他人の悪口を言う。陰口を言う。 | 6.72 | 2.66 | > | 6.70 | 2.90 | 0.13 | | 28 | 6 | 52 | |
| | 32 | 授業中におしゃべりをする。 | 6.67 | 2.41 | > | 6.23 | 2.74 | 3.01 | ** | 24 | 18 | 44 | |
| | 27 | 信号無視。 | 7.28 | 2.46 | > | 6.88 | 2.90 | 2.67 | ** | 20 | 50 | 16 | |
| | | 第1因子全体 | | | 6.65 | 1.26 | > | 6.46 | 1.31 | | | | |
| 第2因子 | 15 | 電車などで、お年寄りに席をゆずらない。 | 6.63 | 2.52 | > | 6.51 | 2.66 | 1.08 | | 34 | 36 | 16 | |
| | 35 | お年寄りに冷たくする。やさしくしない。 | 7.07 | 2.36 | > | 6.70 | 2.73 | 3.39 | ** | 56 | 12 | 18 | |
| | 16 | 電車の中で、携帯電話で声を出して話をする[緊急時や自分1人しか乗っていない場合を除く]。 | 6.47 | 2.63 | > | 6.21 | 2.84 | 1.82 | | 32 | 40 | 14 | |
| | 11 | 電車の座席を詰め合わせて座らない。1人以上の席を取る。 | 5.77 | 2.45 | > | 5.54 | 2.70 | 1.41 | | 30 | 34 | 22 | |
| | 18 | 困っている人を助けない。 | 6.05 | 2.61 | < | 6.42 | 2.79 | 2.69 | ** | 38 | 14 | 34 | |
| | 10 | 用がなくなったら、世話になった人にも知らん顔する。 | 7.63 | 2.18 | < | 7.86 | 1.87 | 1.71 | | 46 | 14 | 26 | |
| | | 第2因子全体 | | | 6.60 | 0.68 | > | 6.54 | 0.76 | | | | |
| 第3因子 | 8 | 親を大切にしない。親不孝をする。 | 7.84 | 2.17 | < | 8.14 | 1.95 | 2.79 | ** | 54 | 8 | 24 | |
| | 1 | 万引きする。 | 8.58 | 1.50 | < | 8.72 | 1.74 | 1.20 | | 54 | 22 | 10 | |
| | 4 | 動物を虐待する。ペットを捨てる。 | 8.74 | 1.54 | > | 8.51 | 1.88 | 3.17 | ** | 58 | 12 | 18 | |
| | 28 | キセル(所定の料金を支払わずに乗車する)。 | 7.65 | 2.13 | > | 7.30 | 2.38 | 2.99 | ** | 36 | 42 | 8 | |
| | 13 | 食べ物を残したり、粗末にする。 | 6.67 | 2.53 | > | 6.58 | 2.90 | 0.62 | | 42 | 10 | 34 | |
| | 23 | 児童虐待。子どもに暴力を振るう。 | 9.28 | 1.11 | < | 9.30 | 1.22 | 0.47 | | 66 | 12 | 8 | |
| | 29 | 売春。援助交際。 | 6.93 | 2.65 | > | 6.51 | 3.14 | 2.05 | * | 34 | 16 | 36 | |
| | 5 | 「ありがとう」「ごめんなさい」を言わない。 | 7.00 | 2.58 | < | 7.26 | 2.56 | 1.77 | | 30 | 20 | 36 | |
| 20 | 親の言いつけに従わない。 | 4.86 | 2.54 | > | 4.81 | 2.68 | 0.26 | | 26 | 4 | 56 | | |
| | | 第3因子全体 | | | 7.51 | 1.33 | > | 7.46 | 1.36 | | | | |
| 第4因子 | 7 | 離婚する。 | 3.70 | 2.75 | < | 4.84 | 3.25 | 4.53 | *** | 10 | 18 | 58 | |
| | 6 | 人工中絶をする。 | 5.28 | 2.40 | < | 5.49 | 3.02 | 0.82 | | 22 | 22 | 42 | |
| | 31 | 自殺。自殺未遂。 | 6.72 | 3.40 | < | 7.51 | 3.31 | 2.51 | * | 34 | 12 | 40 | |
| | 21 | 物を大事にしない。修理しないで、新品に買い換える。 | 4.86 | 2.58 | > | 4.70 | 3.11 | 0.96 | | 18 | 10 | 58 | |
| | | 第4因子全体 | | | 5.14 | 1.25 | < | 5.64 | 1.30 | | | | |
| | | 質問項目全体 | | | 6.69 | 1.48 | > | 6.62 | 1.58 | | | | |

Table2 悪さの程度と重要性の平均評定値の差 (女子) : 因子別表示

| 因子 | 項目 No | 行為 | 程度 | | 程度と重要性の平均値の大小 | 重要性 | | t 値 | *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001 | 領域判断: 道徳(人) | 領域判断: 社会的慣習(人) | 領域判断: 個人(人) |
|------|-----------------|--|------|------|---------------|------|------|------|--|----------------|-------------------|----------------|
| | | | 平均値 | SD | | 平均値 | SD | | | | | |
| 第1因子 | 9 | 他の人を、いじめる。 | 8.47 | 1.78 | < | 8.58 | 1.71 | 1.47 | | 113 | 16 | 23 |
| | 23 | 児童虐待。子どもに暴力を振るう。 | 9.47 | 1.12 | < | 9.49 | 1.17 | 0.58 | | 129 | 13 | 10 |
| | 14 | 人を精神的に傷つける。 | 8.54 | 1.54 | > | 8.51 | 1.66 | 0.53 | | 118 | 3 | 31 |
| | 36 | 他人の悪口を言う。陰口を言う。 | 6.98 | 2.19 | < | 7.11 | 2.17 | 1.69 | | 63 | 12 | 77 |
| | 10 | 用がなくなったら、世話になった人にも知らん顔する。 | 7.45 | 1.90 | > | 7.38 | 2.04 | 0.62 | | 69 | 22 | 61 |
| | 34 | 試験のときなどに、カンニングする。 | 7.53 | 2.26 | < | 7.61 | 2.34 | 0.86 | | 59 | 35 | 58 |
| | 4 | 動物を虐待する。ペットを捨てる。 | 9.14 | 1.34 | < | 9.17 | 1.39 | 0.54 | | 118 | 17 | 17 |
| | 3 | 人をバカにする。見下す。 | 7.32 | 2.00 | < | 7.61 | 2.08 | 3.11 | ** | 65 | 10 | 77 |
| | 22 | 約束を守らない。約束を破る。秘密を守らない。 | 7.53 | 2.06 | < | 7.62 | 2.14 | 0.98 | | 83 | 12 | 57 |
| | 27 | 信号無視。 | 6.97 | 2.48 | < | 7.02 | 2.57 | 0.46 | | 54 | 73 | 25 |
| | 19 | うそのうわさを流す。 | 7.16 | 2.25 | > | 7.07 | 2.20 | 1.05 | | 76 | 9 | 67 |
| | 28 | キセル(所定の料金を支払わずに乗車する)。 | 7.39 | 2.37 | > | 7.18 | 2.54 | 2.75 | ** | 67 | 58 | 27 |
| | 29 | 売春。援助交際。 | 8.17 | 2.11 | < | 8.22 | 2.08 | 0.66 | | 77 | 35 | 40 |
| | 37 | 仕事をさぼる。無断で休む。 | 7.43 | 2.20 | < | 7.58 | 2.19 | 1.98 | * | 42 | 75 | 35 |
| | 26 | 違法駐車。 | 6.36 | 2.40 | < | 6.43 | 2.36 | 0.75 | | 44 | 79 | 29 |
| | 17 | 不倫・浮気。 | 6.78 | 2.38 | > | 6.66 | 2.52 | 1.21 | | 42 | 20 | 90 |
| 33 | 人にうそをつく。 | 6.11 | 2.30 | < | 6.21 | 2.47 | 0.95 | | 55 | 7 | 90 | |
| | 第1因子全体 | 7.58 | 0.92 | < | 7.61 | 0.92 | | | | | | |
| 第2因子 | 12 | 列への割り込み。順番を守らない。 | 6.97 | 2.06 | > | 6.72 | 2.16 | 2.25 | * | 73 | 48 | 31 |
| | 2 | ゴミ、タバコ、空き缶などのポイ捨てをする。 | 7.66 | 1.75 | < | 7.87 | 1.84 | 2.11 | * | 87 | 45 | 20 |
| | 11 | 電車の座席を詰め合わせて座らない。1人以上の席を取る。 | 6.18 | 2.12 | > | 6.00 | 2.24 | 1.60 | | 47 | 61 | 44 |
| | 1 | 万引きする。 | 8.89 | 1.30 | < | 9.01 | 1.47 | 1.49 | | 116 | 32 | 4 |
| | 16 | 電車の中で、携帯電話で声を出して話をする(緊急時や自分1人しか乗っていない場合を除く)。 | 6.70 | 2.15 | < | 6.72 | 2.15 | 0.22 | | 41 | 81 | 2 |
| | 30 | 電車の中や、公共の場で、自分の子どもが騒いでも注意しない[その子どもの親の態度]。 | 7.82 | 1.99 | < | 8.01 | 1.83 | 2.30 | * | 58 | 52 | 42 |
| 13 | 食べ物を残したり、粗末にする。 | 6.63 | 2.15 | < | 6.75 | 2.15 | 1.22 | | 52 | 42 | 58 | |
| 32 | 授業中におしゃべりをする。 | 5.83 | 2.26 | < | 6.04 | 2.39 | 1.95 | | 34 | 33 | 85 | |
| | 第2因子全体 | 7.08 | 0.99 | < | 7.14 | 1.06 | | | | | | |
| 第3因子 | 15 | 電車などで、お年寄りに席をゆずらない。 | 6.51 | 2.04 | < | 6.55 | 2.11 | 0.43 | | 62 | 47 | 43 |
| | 35 | お年寄りに冷たくする。やさしくしない。 | 7.11 | 2.15 | < | 7.25 | 2.14 | 1.88 | | 87 | 20 | 45 |
| | 8 | 親を大切にしない。親不孝をする。 | 7.54 | 2.01 | < | 7.75 | 2.02 | 2.56 | * | 86 | 12 | 54 |
| | 21 | 物を大事にしない。修理しないで、新品に買い換える。 | 5.07 | 2.24 | < | 5.30 | 2.39 | 2.32 | * | 21 | 33 | 98 |
| | 31 | 自殺。自殺未遂。 | 7.87 | 2.80 | < | 8.54 | 2.32 | 4.06 | *** | 61 | 9 | 82 |
| | 20 | 親の言いつけに従わない。 | 4.94 | 2.17 | < | 5.18 | 2.26 | 2.65 | ** | 19 | 19 | 114 |
| | 18 | 困っている人を助けない。 | 6.81 | 1.75 | < | 6.94 | 1.96 | 1.47 | | 76 | 12 | 64 |
| | 5 | 「ありがとう」「ごめんさい」を言わない。 | 6.80 | 2.19 | < | 7.37 | 2.07 | 4.74 | ** | 62 | 29 | 61 |
| | 第3因子全体 | 6.58 | 1.07 | < | 6.86 | 1.16 | | | | | | |
| 第4因子 | 7 | 離婚する。 | 3.99 | 2.39 | < | 4.59 | 2.71 | 4.13 | *** | 4 | 28 | 120 |
| | 6 | 人工中絶をする。 | 6.20 | 2.47 | < | 6.91 | 2.57 | 4.61 | *** | 46 | 21 | 85 |
| | 38 | 小学生・中学生の茶髪。 | 4.45 | 2.67 | < | 4.51 | 2.75 | 0.70 | | 12 | 44 | 96 |
| | 24 | 酔っぱらう。 | 3.30 | 2.42 | < | 3.49 | 2.52 | 1.95 | | 5 | 16 | 131 |
| | 25 | タバコを吸う。 | 4.23 | 2.83 | < | 4.65 | 2.97 | 3.58 | *** | 4 | 20 | 128 |
| | 第4因子全体 | 4.44 | 1.08 | < | 4.83 | 1.26 | | | | | | |
| | 質問項目全体 | 6.85 | 1.40 | < | 6.99 | 1.39 | | | | | | |

Table3 善さの程度と重要性の平均評定値の差 (男子) : 因子別表示

| 因子 | 項目 No | 行為 | 程度 | | 程度と重要性の平均値の大小 | 重要性 | | t 値 | *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001 | 領域判断: 道徳 (人) | 領域判断: 社会的慣習 (人) | 領域判断: 個人 (人) |
|------|-------|--|---------------|------|---------------|------|------|------|---|--------------|-----------------|--------------|
| | | | 平均値 | SD | | 平均値 | SD | | | | | |
| 第1因子 | 17 | 自分の先祖を大切に思う。 | 7.19 | 2.50 | > | 6.72 | 2.62 | 3.87 | *** | 30 | 10 | 46 |
| | 16 | 先祖のお墓参りに行く。 | 7.28 | 2.34 | > | 6.95 | 2.49 | 2.92 | ** | 32 | 20 | 34 |
| | 24 | 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。 | 9.12 | 1.37 | > | 8.51 | 2.37 | 2.64 | ** | 14 | 4 | 68 |
| | 27 | 自然と調和した生き方をする。 | 7.63 | 2.60 | > | 7.19 | 2.91 | 3.76 | *** | 32 | 24 | 30 |
| | 26 | 自然を大切ににする。 | 8.79 | 1.41 | > | 8.60 | 1.51 | 1.65 | | 46 | 22 | 18 |
| | 15 | 親孝行する。 | 8.37 | 1.89 | > | 8.19 | 1.70 | 1.58 | | 44 | 8 | 34 |
| | 14 | 家族揃って、食事をする。 | 6.91 | 2.78 | > | 6.58 | 2.68 | 1.72 | | 16 | 28 | 42 |
| | 13 | 年中行事(正月・お盆・お節句・お月見など)を大切に する。 | 6.37 | 2.93 | > | 6.26 | 3.15 | 0.63 | | 16 | 44 | 26 |
| | 6 | 乗り物の中で、お年寄りに席をゆする。 | 7.63 | 2.63 | > | 7.16 | 2.59 | 3.34 | ** | 36 | 34 | 16 |
| | 1 | 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを言う。 | 8.93 | 1.30 | > | 8.53 | 1.60 | 3.97 | *** | 46 | 28 | 12 |
| | | 第1因子全体 | 7.82 | 0.93 | > | 7.47 | 0.90 | | | | | |
| 第2因子 | 22 | 日本人を愛する。大切に思う。 | 6.33 | 2.63 | > | 5.86 | 2.93 | 1.80 | | 18 | 24 | 44 |
| | 21 | 自分の故郷を愛する。大切に思う。 | 6.65 | 2.95 | > | 5.79 | 2.93 | 3.24 | ** | 18 | 18 | 50 |
| | 23 | 世界中の人を愛する。大切に思う。 | 6.91 | 2.52 | > | 6.47 | 2.88 | 1.68 | | 28 | 22 | 36 |
| | 20 | 日本の国を愛する。大切に思う。 | 5.93 | 2.71 | > | 5.77 | 2.79 | 0.79 | | 20 | 26 | 40 |
| | 18 | 神仏に手を合わせる。 | 6.09 | 2.97 | > | 5.37 | 3.06 | 3.78 | *** | 26 | 16 | 44 |
| | 19 | 太陽に手を合わせる。 | 3.23 | 2.97 | > | 2.91 | 2.78 | 1.43 | | 8 | 12 | 66 |
| | 5 | 年上の人に対して敬語(相手を敬った言葉遣い)を使う。 | 8.26 | 1.66 | > | 7.86 | 1.78 | 4.08 | *** | 28 | 50 | 8 |
| | | 第2因子全体 | 6.20 | 1.52 | > | 5.72 | 1.48 | | | | | |
| 第3因子 | 4 | 学校の先生に挨拶をする。 | 7.60 | 2.52 | > | 7.33 | 2.31 | 1.38 | | 28 | 40 | 18 |
| | 25 | 夢や目標を持つ。 | 8.47 | 2.43 | < | 8.56 | 2.18 | 0.53 | | 12 | 2 | 72 |
| | 2 | 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことばを 言う。 | 8.28 | 1.97 | > | 8.26 | 1.78 | 0.11 | | 36 | 22 | 28 |
| | 8 | 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢 する。 | 5.53 | 2.77 | < | 5.63 | 2.77 | 0.42 | | 12 | 18 | 56 |
| | 3 | 近所の人に挨拶をする。 | 7.60 | 2.34 | > | 7.19 | 2.44 | 4.92 | *** | 20 | 50 | 16 |
| | 7 | 乗り物の中で、障害のある人、怪我(けが)をしている人 に席をゆする。 | 8.42 | 1.96 | > | 8.16 | 2.08 | 1.85 | | 42 | 34 | 10 |
| | 9 | 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない(緊急事 態や、自分1人しか乗っていない場合は除く)。 | 6.93 | 2.71 | < | 7.02 | 2.53 | 0.97 | | 28 | 32 | 26 |
| | | 第3因子全体 | 7.55 | 1.05 | > | 7.45 | 1.00 | | | | | |
| 第4因子 | 12 | 法律を守る。 | 8.37 | 2.26 | < | 8.86 | 1.57 | 2.26 | * | 24 | 52 | 10 |
| | 11 | 社会のルールを守る。 | 8.05 | 1.99 | < | 8.42 | 1.84 | 2.12 | * | 22 | 56 | 8 |
| | 10 | 小学生・中学生が校則を守る。 | 6.81 | 2.32 | < | 7.07 | 2.29 | 1.90 | | 30 | 38 | 18 |
| | | | 第4因子全体 | 7.74 | 0.82 | < | 8.12 | 0.93 | | | | |
| | | 質問項目全体 | 7.32 | 1.37 | > | 7.08 | 1.40 | | | | | |

Table4 善さの程度と重要性の平均評定値の差(女子): 因子別表示

| 因子 | 項目 No | 行為 | 程度 | | 程度と重要性の平均値の大小 | 重要性 | | t 値 | *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001 | 領域判断: 道徳(人) | 領域判断: 社会的慣習(人) | 領域判断: 個人(人) | |
|------|--------|--|--------------|------|---------------|------|------|------|---|-------------|----------------|-------------|----|
| | | | 平均値 | SD | | 平均値 | SD | | | | | | |
| 第1因子 | 11 | 社会のルールを守る。 | 8.09 | 1.71 | = | 8.09 | 1.80 | - | | 57 | 87 | 8 | |
| | 12 | 法律を守る。 | 8.38 | 1.78 | < | 8.56 | 1.67 | 2.13 | * | 64 | 82 | 6 | |
| | 5 | 年上の人に対して敬語(相手を敬った言葉遣い)を使う。 | 8.02 | 1.54 | > | 7.78 | 1.74 | 2.90 | ** | 61 | 73 | 18 | |
| | 10 | 小学生・中学生が校則を守る。 | 7.15 | 1.99 | > | 7.06 | 2.14 | 0.95 | | 51 | 76 | 25 | |
| | 9 | 乗り物の中で、携帯電話で声を出して話をしない(緊急事態や、自分1人しか乗っていない場合は除く)。 | 7.45 | 1.77 | > | 7.30 | 1.81 | 1.70 | | 38 | 29 | 29 | |
| | 2 | 家族の人に対して、「ありがとう」など、感謝のことは言う。 | 8.65 | 1.41 | > | 8.20 | 1.67 | 3.90 | *** | 83 | 20 | 49 | |
| | 6 | 乗り物の中で、お年寄りに席をゆずる。 | 7.86 | 1.82 | > | 7.40 | 1.82 | 4.45 | *** | 64 | 58 | 30 | |
| | 1 | 他人に対して、「ありがとう」など、感謝のことは言う。 | 8.99 | 1.10 | > | 8.46 | 1.53 | 5.07 | *** | 94 | 29 | 29 | |
| | 7 | 乗り物の中で、隣席のある人、怪我(けが)をしている人に席をゆずる。 | 8.72 | 1.36 | > | 8.41 | 1.48 | 4.67 | *** | 91 | 44 | 17 | |
| | 4 | 学校の先生に挨拶をする。 | 7.68 | 1.58 | > | 7.18 | 1.80 | 5.11 | *** | 48 | 75 | 29 | |
| | 3 | 近所の人に挨拶をする。 | 7.69 | 1.54 | > | 7.14 | 1.75 | 5.55 | *** | 34 | 93 | 25 | |
| | 15 | 親孝行する。 | 8.14 | 1.65 | > | 7.93 | 1.80 | 2.53 | * | 71 | 14 | 67 | |
| | | 第1因子全体 | | 8.07 | 0.55 | > | 7.79 | 0.56 | | | | | |
| | 第2因子 | 18 | 神仏に手を合わせる。 | 5.60 | 2.72 | > | 5.30 | 2.78 | 2.92 | ** | 30 | 37 | 85 |
| | | 17 | 自分の先祖を大切に思う。 | 6.91 | 2.31 | > | 6.56 | 2.39 | 3.34 | ** | 43 | 33 | 76 |
| 16 | | 先祖のお墓参りに行く。 | 7.16 | 2.12 | > | 6.92 | 2.30 | 2.59 | * | 49 | 47 | 56 | |
| 19 | | 太極に手を合わせる。 | 3.36 | 2.71 | > | 3.13 | 2.71 | 2.58 | * | 13 | 26 | 113 | |
| 13 | | 年中行事(正月・お盆・お節句・お月見など)を大切にす。 | 6.35 | 2.51 | > | 6.07 | 2.42 | 2.53 | * | 14 | 74 | 64 | |
| 8 | | 人間関係を大切にするために、自分の言いたいことを我慢する。 | 5.47 | 1.93 | < | 5.61 | 1.99 | 1.28 | | 12 | 19 | 121 | |
| | 第2因子全体 | | 5.81 | 1.38 | > | 5.60 | 1.35 | | | | | | |
| 第3因子 | 25 | 夢や目標を持つ。 | 8.11 | 1.71 | > | 7.95 | 1.98 | 1.66 | | 20 | 4 | 128 | |
| | 26 | 自然を大切にす。 | 8.46 | 1.47 | > | 8.27 | 1.62 | 2.40 | * | 79 | 40 | 33 | |
| | 24 | 夢や目標を実現させるために、努力や辛抱をする。 | 7.97 | 1.68 | > | 7.78 | 1.84 | 2.11 | * | 19 | 6 | 127 | |
| | 27 | 自然と調和した生き方をす。 | 7.59 | 1.80 | > | 7.42 | 1.92 | 1.83 | | 41 | 45 | 66 | |
| | 14 | 家族揃って、食事をする。 | 7.04 | 2.15 | > | 6.86 | 2.28 | 1.69 | | 25 | 38 | 89 | |
| | 第3因子全体 | | 7.83 | 0.54 | > | 7.66 | 0.54 | | | | | | |
| 第4因子 | 22 | 日本人を愛する。大切に思う。 | 6.07 | 2.31 | > | 5.88 | 2.34 | 1.54 | | 28 | 24 | 100 | |
| | 23 | 世界中の人を愛する。大切に思う。 | 6.74 | 2.27 | > | 6.67 | 2.39 | 0.60 | | 47 | 27 | 78 | |
| | 21 | 自分の故郷を愛する。大切に思う。 | 6.39 | 2.30 | > | 6.05 | 2.31 | 2.85 | ** | 27 | 25 | 100 | |
| | 20 | 日本の国を愛する。大切に思う。 | 5.45 | 2.57 | > | 5.28 | 2.71 | 1.29 | | 33 | 35 | 84 | |
| | | 第4因子全体 | | 6.16 | 0.55 | > | 5.97 | 0.57 | | | | | |
| | 質問項目全体 | | 7.24 | 1.18 | < | 7.01 | 1.27 | | | | | | |